

## 平成30年度 修了式式辞

皆さん、おはようございます。

3月1日の卒業式では、この学校で皆さんと一緒に過ごした先輩方がたくさんの学びや思い出をもって巣立っていきました。とても爽やかで清々しい感動的な旅立ちだったと思います。それは、3年間充実した高校生活を送ったこと。そして、それぞれが卒業後の進路に向けて一生懸命取組み、実現した達成感や満足感にも感じました。ぜひ、皆さんも先輩方に続いてもらいたいと思います。

さて、今日は、1年の締めくくりである修了式です。昨年4月からの自分を振り返り、皆さんは「自分がどのくらい成長した」と言えるでしょうか。学習のこと、部活動のこと、学校での生活、家での生活、友人関係など、この一年について総括し、自己評価をしてもらいたいと思います。そして、自分自身で「うまくいったこと、頑張ったな」というところは、自信にして、次の更なる高みを目指してください。それとは逆に、思い通りにならなかったこと、悔しい思いをしたこと、ここはもう少しという人もいますかと思っています。その原因を明らかにし、改善すべき点は早速改善して、新年度に生かしてほしいと思います。そのためにも、今何をすべきかを考え、目標を持ち、行動に移すことが重要です。

一昨日行われた「卒業生の進路体験を語り継ぐ会」では、先輩方が、悩みや、迷いを持ちながらも、進路実現のためにチャレンジしたその過程を、具体的に、生の声で語ってくれました。先輩方が実際に辿った道のりでしたので、とても説得力がある内容だったと思います。

私も各コースの部屋を廻って話を聞きましたが、先生方の指導を受けながらも、「自分の進路は、自分で切り開く」「最後まで諦めずに、粘りぬく」という強い決意が感じられました。そして、共通するのが、進路実現のために、(先程言いましたが)今何をすべきかを考え、目標を持ち、行動に移したことでした。

進路目標の決定時期、勉強の方法、学習時間の確保など、大切なことをたくさん伝えてくれましたが、簡単な道のりではなかったことも話してくれました。ある先輩は、勉強したノート(ルーズリーフ)や単語帳を袋に入れて持ってきてくれた人もいまし

た。自分で作ったノートを使って繰り返し・繰り返しやったとのこと。勉強のやり方は、人それぞれでしょうが、「俺はこれだけやった」という自信が、試験会場でも平常心を保ち、力を発揮する源にしていたのだと思います。

また、看護学校に進学した先輩は、看護系大学の推薦入試に失敗してから、看護学校の一般入試に切り替えて挑んだエピソードを話してくれました。その先輩は、周りが次々と進路が決まっていき、教室が騒がしくなっていく中でも、3年間の蓄積があることを胸に、合格のためには今やるしかないと心に決め、必死になって試験に挑んだ話をしてくれました。

また、勉強時間の確保について話してくれた先輩は、部活動でなかなか時間が作れない時期は、電車を待っている時間や電車に乗っている時間のわずかな時間でも無駄にしなかったという人や、大学の試験前は、次々とやることが見えてきて、3時間くらいしか寝ていなかったと語った人もいました。

このように、進路達成のために、たゆまぬ努力を重ねて、自分なりの勉強の仕方やスタイルを身に付けて努力したことは、卒業後の進路先でもまた社会人になっても、新しい言葉や技術を覚えるときに通用しますし、時間の管理についても応用できるのかと思います。これが卒業式の式辞で話した「学び続ける心」にも繋がります。

皆さんは、まず、進路希望をはっきりと確立してください。2年生は、あと6カ月で就職試験・大学のAO入試が始まります。1年生も、目標設定が早ければ早いほど準備に入ることができ、進路達成にも繋がります。そのためにも、しっかり学習に取り組んでほしいと思います。

さて、明日から4月7日まで16日間の春休みとなります。今、この場で話したことを踏まえて、新たな決意を抱き、来るべき新年度に向けてしっかり準備をしてください。4月には、240名の新入生が入ってきます。皆さんが、先輩として新入生の手本となり導き、学習・部活動・ボランティア活動など更に活躍してくれることを期待し、式辞といたします。

平成31年3月22日

山形県立上山明新館高等学校長 阿部 孝